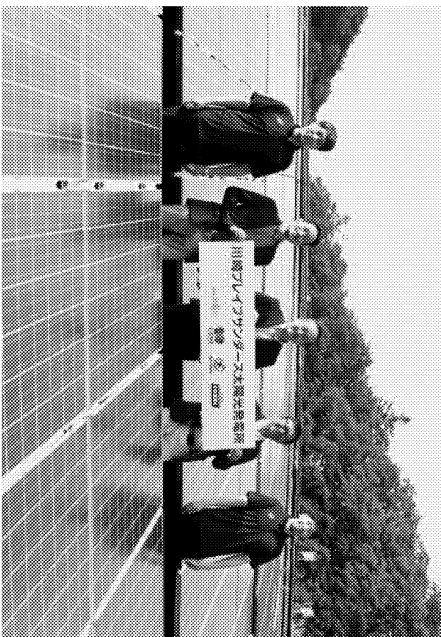


プロバスケ、再エネ電力販売



チーム名を冠した太陽光発電所の電力を活用

川崎フレイササンダースはSDGs活動を強化

環境	再生可能エネルギーの電力プランを販売
環境	試合会場で販売する飲食用の容器に環境負荷の低い素材を使う
飢餓や貧困	来場者1人につき1円を子ども食堂に寄付
飢餓や貧困	賞味期限の迫った食品をスタジアムで回収し、フードバンクかわさきに寄付
教育	アシスト数1回につき1000円をスポンサー振興に充てる

川崎ブレイブ・子ども食堂も支援

「フリー・エヌ・イー（De N A）傘下のプロバスケットボールチーム「川崎ブレイブサンダース（川崎市）」は、新電力のUPDATER（旧・川崎ブレイブサンダース）が取り組むSDGs（持続可能）な開発目標）事業に充てる。加入者はエヌ・イーなど限定グッズの特典などを受け取ることもできる。チームへの資金支援の側面がある一方、環境への低負荷の電力使用を促し、社会課題や環境問題への取り組みを促す。チームとして、でもアップロードを強化し、ポンスー収入にもつなげる。川崎ブレイブサンダースは11月26日、再生可能エネルギー「一歩使った電力アップ」川崎ブレイブサンダース電気の「UPDATER」供給を始めた。UPDATERは電力を販売し、「川崎ブレイブサンダース太陽光発電」と名付けた相模原市の太陽光発電所で発電した電力を使う。化石燃料の電力でないことを証明する「非化石証書」も使い、実質再エネ100%の来場者一人あたり1円の手付けを募り、集まった資金は川崎市内のこども食堂に渡す。試合でのチームグッズ100円を周辺地域のパスケットボールコートの設置などに充てる。元派伸夫社長は「親しみやすく身近な存在であるスポンジとSDGsの組み合わせは有効だ」と強調する。

地域に根ざしたプロスポーツの拠点での取り組みは住民やスポンジアップに加え企業や自治体を巻き込む。食品器具の開発などを手掛けるヨネヤマ（川崎市）と、試合会場SDGsに取り組むプロジェクトで販売する飲食用の容器を全て、環境負荷の低い容器に切り替えた。元派氏は「川崎には技術と熱意を持った企業も多い」と話す。

従来のプロチームは、アップロードを頼りにスポンジを集めるしてきた。今回はSDGsの取り組みを通じて、資金を集めて社会課題の解決にもつなげる。新たなプロチーム支援の形になる可能性がある。（藤生貴子）